

秀吉が感心した妙林尼の活躍 ~戦国時代の鶴崎地区~

今から430年ほど前の戦国時代、鶴崎一帯は大友家家臣の吉岡氏が治めていました。その頃薩摩・大隅（鹿児島県）を統一し勢いに乗る島津軍は、日向（宮崎県）を越え豊後へ侵入してきました。そして戸次を越え、鶴崎へと迫ってきました。



鶴崎地区にある、妙林尼の石像

あるじ不在の鶴崎

吉岡家当主である鎮興は、有力な家臣でしたが、島津軍との戦い（高城・耳川の戦い）で、命を落としました。島津軍が来た時、息子の甚吉は宗麟と共に丹生島城（臼杵市）で戦っていたため、妻の妙林尼が鶴崎を守っていました。

彼女は島津軍の侵入に備え、高田の武士や領民たちを集めます。そして自らの館のまわりの堀幅を広げ、落とし穴や柵・土塁を築き、館を城造りにしました。この改修によってできた鶴崎城は大野川と乙津川に挟まれた平地にあったようです（鶴崎小学校が鶴崎駅の北側にあったと考えられていますが、正確な位置はわかりません）。



大分市内の主な山城の分布図

鶴崎城を死守

城に立てこもった妙林尼は、島津軍3000人の16回にも及ぶ攻撃をくい止め、和議に持ち込みました。その後豊臣秀吉軍が九州に上陸した事を聞き、島津軍が撤退する事になると、島津軍の武将たちを自分の屋敷に呼び、これまでの互いの健闘をねぎらうという名目で宴会を開きました。そして、屋敷をでた島津軍が乙津川を渡ろうとしたところを待ちかまえ、川岸で奇襲攻撃をかけました。その時、武将2人を討ち取り、その首を宗麟の下へ送り届けました。彼女の活躍を聞いた秀吉は、本人と面会を望んだともいわれています。

これまで地域の人々に語り継がれてきた妙林尼の活躍は、石像などのモニュメントと共にこれからも伝えられていくでしょう。



東巖寺にある、島津軍武将2人の墓